



もっと生徒が意思決定できる学校に

桜花薫る季節——。西の方角から大仁中学校を望むと、まるで校舎が桜の絨毯の上に浮かんでいるかのような印象を抱きます。桃源郷のようだと形容したら手前味噌で大袈裟でしょうか。地域の自慢の風景になっているかと思うと、まさに学び舎にふさわしい環境であることに感謝の念を強くします。

4月8日(金)に94名の新入生を迎えました。2年生が116名、3年生が109名、総勢319名で、学校史上で最小規模となっているのが現状です。しかしながら、大中学生の学びに対する真摯な姿勢と意欲的な取組は、私たち教職員の誇りです。そこに、いかにして急激に変化する社会を生き抜く力を身につけさせるか——。本校に課せられた重要テーマです。

本校では、生徒に最も身につけたい資質・能力を「自分で考え、判断・決定する力」と押さえ、ここをゴールに教育活動を展開することを構想しています。

——あいさつができる。思いやりがある。規範意識が高い。指示に従って行動できる。生徒間の関係性がよい。授業に一生懸命取り組む——

これは大中学生の特長です。

——自己主張が控えめ。自尊感情が低い。家庭学習の習慣が不十分——

これは大中学生の課題です。

将来で約束されるものが皆無とも言われる今の社会に生きていることを強く自覚するとともに、自分のよさや課題を認識した上で生きるための武器を身につけることは、すべての生徒にとって必要不可欠です。その武器の一つが、自分の頭でしっかりと考え、自分で適切な判断や決定をする力と押さえています。例えば、巷にあふれる様々な情報の中から正しいものや必要なものを取捨選択するには、「考える力」がなくてはなりません。AIを駆使したとしても最終判断は自分自身です。他人に任せるだけで切り抜けることは難しいばかりか、適切に判断できないことは時として致命的です。

そこで、家庭や地域の皆様にお願ひがあります。生徒が「自分で考える」場面や「自分で判断・決定する」機会を、生活の様々な場面に用意し、共に自主性・自立性を育てていただきたいと思います。「〇〇をやりなさい」「△△はだめ」のような指示・命令では、この力は決して育ちません。「あなたはどう思う?」「どうすればいいと思うの?」のような問いかけを日常化していく必要があります。生徒にかかわるすべての大人が同じベクトルを持つことで、生徒はその力を着実なものにしていきます。昨年度以上に、もっと生徒が意思決定できる学校にしていくことが、大仁中職員の大きな目標です。本年度も、大中学生の「夢を拓く」教育活動を丁寧にじっくりと進めていきます。皆様の温かいご支援・ご協力を切にお願いいたします。

<文責：校長>

☆ようこそ大仁中へ ～1年生 94名が仲間入りしました～

入学式



新しい友達や先生との出会い…期待に胸が膨らみます。



教科書授与。いよいよ新しい学習が始まります！



入学生宣誓。中学校生活へのあこがれ、意気込みが感じられました。

歓迎会



応援団のエールを受けたり、部活動の説明を聞いたり、大仁中6本柱について知ったりする中で、少しずつ大中生らしくなっていきます。校内スタンプラリーでは、大仁中にまつわるクイズに答えながら異学年で楽しく活動しました。



☆令和4年度 職員紹介 ～今年度もよろしくお願いたします～

- ・校長： 園田
- ・教頭： 望月
- ・1年部： 高木(主) 日吉 田崎 大橋 杉尾 石川(6組) 石川(技術科担当)
- ・2年部： 勝田(主) 古屋 田畑 江崎 秋元 阿部 飯嶋
- ・3年部： 高安(主) 清水 江藤 中森 中村 阿部 杉山(養護教諭)
- ・事務部： 斎藤 阿部 平山
- ・ALT： ジャスティン
- ・学校図書館司書： 安富
- ・心の相談員： 森田
- ・学習生活支援員： 西島
- ・スクールカウンセラー： 猪俣
- ・スクールサポートスタッフ： 下次
- ・ICT支援員： 遠藤

